2026年11月11日

2027年３月期
第２四半期（中間期）
連結決算説明資料

双葉電子工業株式会社

注意事項

1. 本資料に記載されている業績予想については、当社が現時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいた見通しであり、為替などの潜在的なリスクや不確実性を含んでいます。
   実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは異なる結果となり得る事をご承知おき下さい。

2. 本資料に記載されている金額は、百万円は単位未満を切り捨てし、億円は単位未満を四捨五入して表示しています。

3. 本資料に記載されている当期(中間)純利益は、親会社株主に帰属する当期(中間)純利益を指しています。

目次

当社製品の説明	P1
2027年３月期　第２四半期（中間期）の連結決算概況	
業績ダイジェスト	P2
市場地域別売上高	P3～4
セグメント別業績状況	P5～6
連結貸借対照表の状況	P7
業績見通し	P8
中期経営計画　重点施策の進捗状況	
中期経営計画 進捗と見通し	P9
活動トピック	P10～11
重点施策　進捗	P12～14
新製品サービス紹介・次期中計に向けた方向性	P15

当社製品の説明

電子機器事業

複合モジュール　：表示デバイスにコントロール基板を組み合せたディスプレイモジュール等。無線・ディスプレイ技術を生かし、お客さまの設計情報から製造する受託製造(EMS)や受託開発(ODM)も実施

産業用ラジコン機器　：トラッククレーンや農薬散布用ラジコンヘリ、ドローンなどを遠隔操作する無線リモコン等

ホビー用ラジコン機器　：双方向通信機能を搭載した高性能な送受信機、ジャイロ、サーボ等

ロボティクス製品　：点検や防災などの用途や、空中・水上の活動に対応した産業用ドローン
耐久性、耐環境性に優れた産業用サーボ

複合モジュール



EMS



産業用ラジコン機器



ホビー用
ラジコン機器



産業用ドローン



産業用サーボ



生産器材事業

プレス金型用器材　：金属プレス加工に用いる金型用のダイセット、パーツ等

モールド金型用器材　：樹脂成形に用いる金型用のモールドベース、パーツ等

プレート製品　：金型用途や機械設備、治工具の設計・製作に最適なプレシジョンプレート、CFRP製切削加工用厚板プレート「フェルカーボ」等

成形・生産合理化機器：金型内計測システム、射出成形AIシステム、ホットランナシステム、工作機械IoTモニタリングシステム等、生産工程の合理化を進める製品

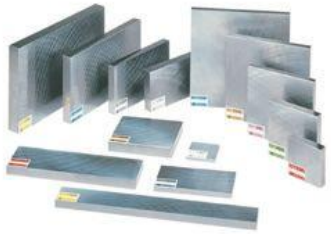
プレス金型用器材
（ダイセット）



モールド金型用器材
（モールドベース）



プレート製品



成形・生産合理化機器
（射出成形AIシステム）



2027年３月期
第２四半期（中間期）の連結決算概況

業績ダイジェスト

- ■電子機器は、 EMSにおける顧客所要増加や、産業用ラジコン機器における新規案件の量産開始、ホビー用ラジコン機器における新製品の上市などにより、大幅な増収および増益
- ■生産器材は、韓国子会社の事業停止による計画的な売上減少に加え、韓国市場において、需要低迷および受注獲得激化に伴う価格競争に対応できなかったことにより、減収および減益
- ■政策保有株式の売却を実施し売却益（４億円）を計上したものの、全社基幹システムに係る費用（15億円）を特別損失で一括計上したことにより、最終利益は大幅に悪化

(百万円)	FY2025/2Q (実績)	**FY2026/2Q (実績)**	増減額 (前年同期比)
売上高	20,953	**22,227**	1,274
売上総利益	3,468	**4,286**	817
利益率(%)	(16.6)	**(19.3)**	
営業利益	△1,125	**△615**	509
利益率(%)	(△5.4)	**(△2.8)**	
(為替差損益)	(△349)	**(△219)**	(129)
経常利益	△860	**△170**	690
利益率(%)	(△4.1)	**(△0.8)**	
中間純利益	△710	**△1,449**	△739
利益率(%)	(△3.4)	**(△6.5)**	
平均為替レート	147円/$	**160円/$**	13円/$
期末日為替レート	149円/$	**157円/$**	8円/$

当期の特徴（前年同期比）

売上高
生産器材において、韓国子会社の事業停止や韓国市場の需要低迷影響を受けたものの、為替影響に加え、電子機器において、 EMSでの顧客所要増加や、産業用ラジコン機器における新規案件の量産開始等により、増収

営業利益
貸倒引当金や事業税の増加等による本社コストの増加があったものの、産業用ラジコン機器、EMSにおける売上増加や、在庫関連損益の良化等により、赤字幅縮小

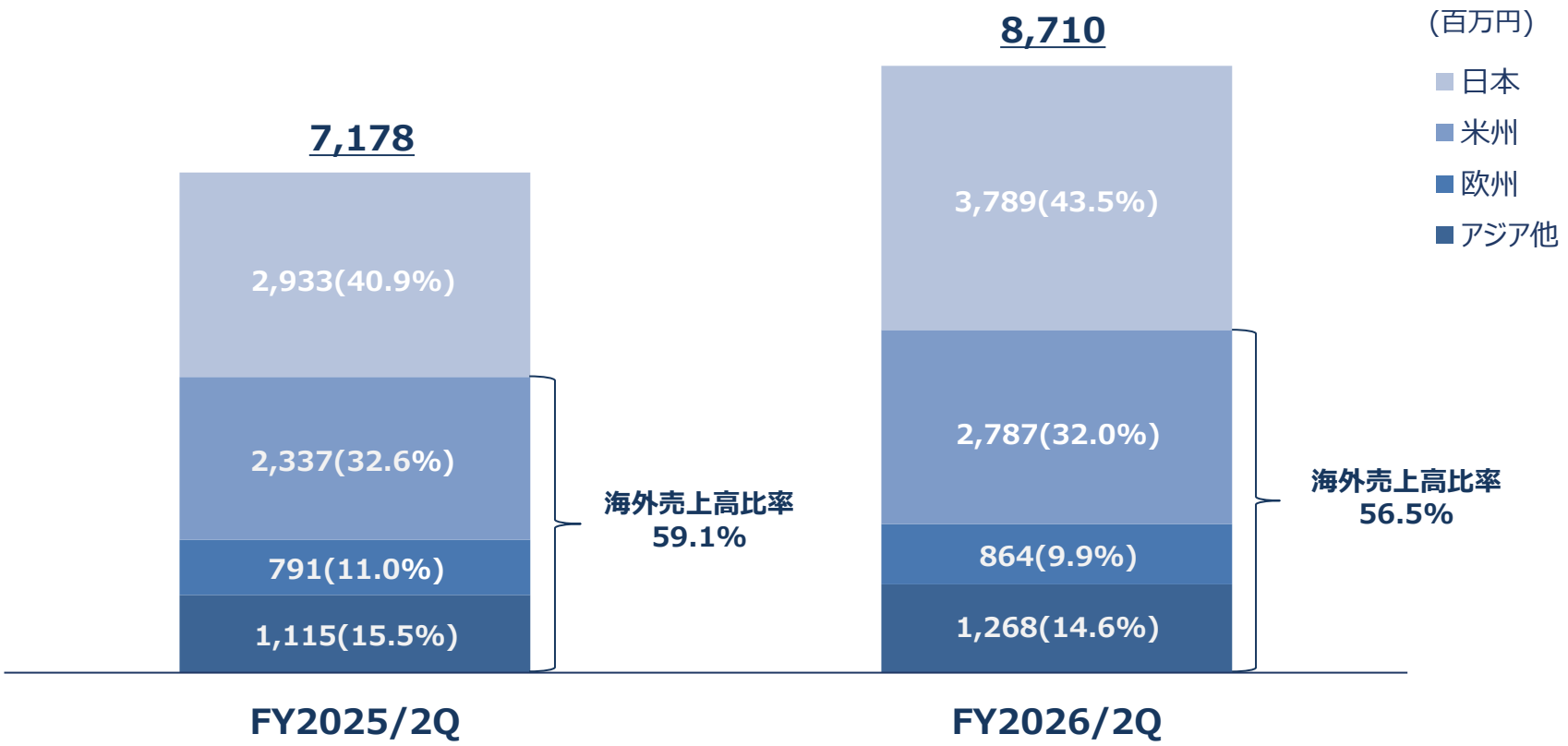
経常利益
営業損失や為替差損が縮小したことにより、赤字幅縮小

中間純利益
政策保有株式の売却を実施したものの、全社基幹システムに係る費用を特別損失で一括計上したことにより、赤字幅拡大

市場地域別売上高/電子機器

- 日本　　：産業用ラジコン機器における建機用途・FA用途・農業用途の顧客所要増加や、国内子会社において新規案件の量産を開始したことなどにより、増収
- 米州・欧州：米州におけるEMSの受注増加や、欧州向けの高性能サーボの受注が好調であったことにより、増収
- アジア他　：複合モジュールにおける受注増加や、EMSの顧客所要増加により、増収

■海外売上高比率：日本向けの増収により、△2.6ポイント減少

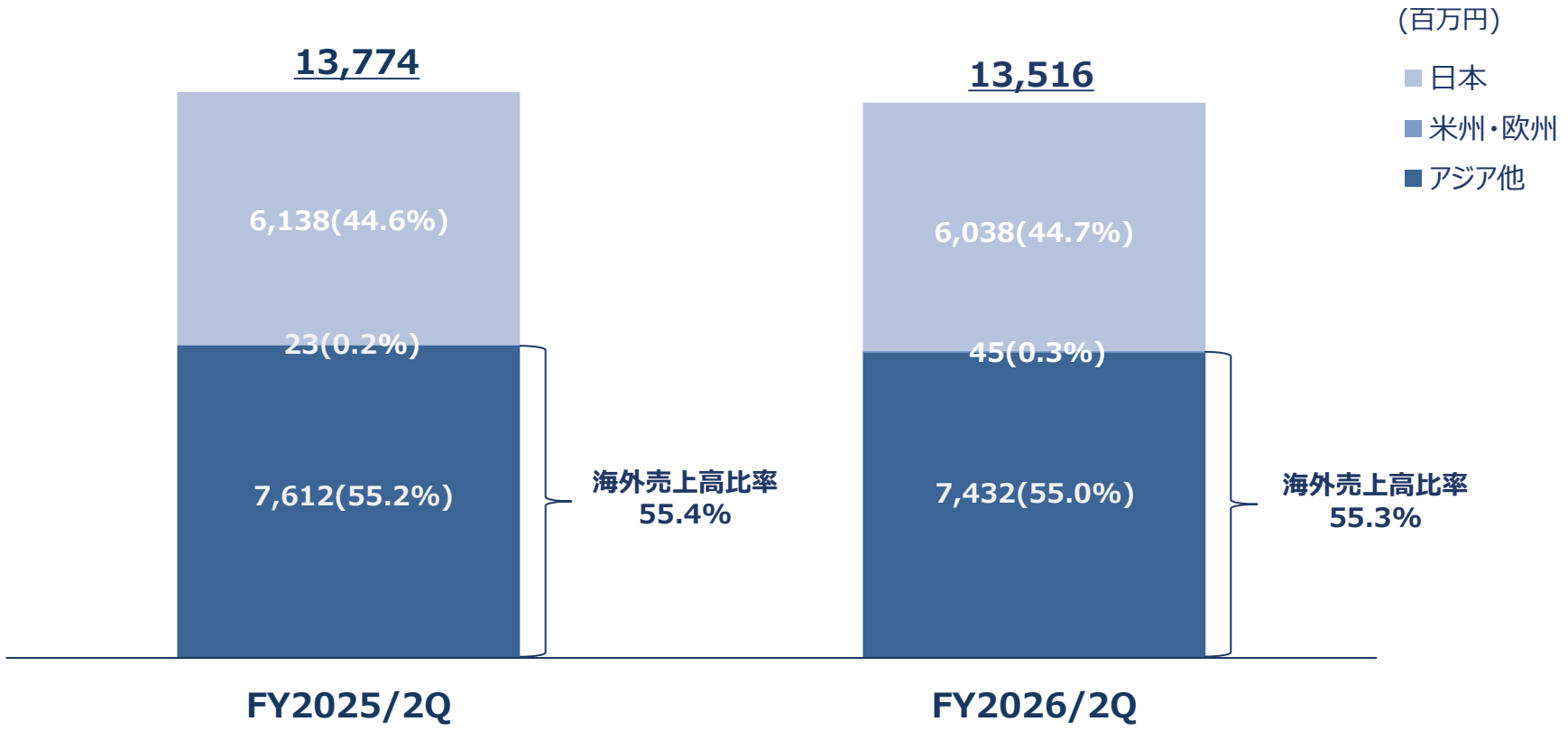


(注) 1.()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。
2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。

市場地域別売上高/生産器材

- 日本　　：適正売価政策を推し進めたものの、主として自動車関連市況の回復遅れの影響により、金型内計測システムをはじめとする成形・生産合理化機器やモールド金型用器材が低調に推移したことなどにより、減収
- アジア他　：アセアン市場は順調に推移したものの、主力の韓国市場で自動車・携帯電話向けの需要の低迷や受注獲得激化に伴う価格競争に対応できなかったことなどにより、減収

■海外売上高比率：為替影響による海外売上の良化があったものの、主として韓国市場における減収により前年同期並み



(注) 1.()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。
2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。

セグメント別業績状況/電子機器

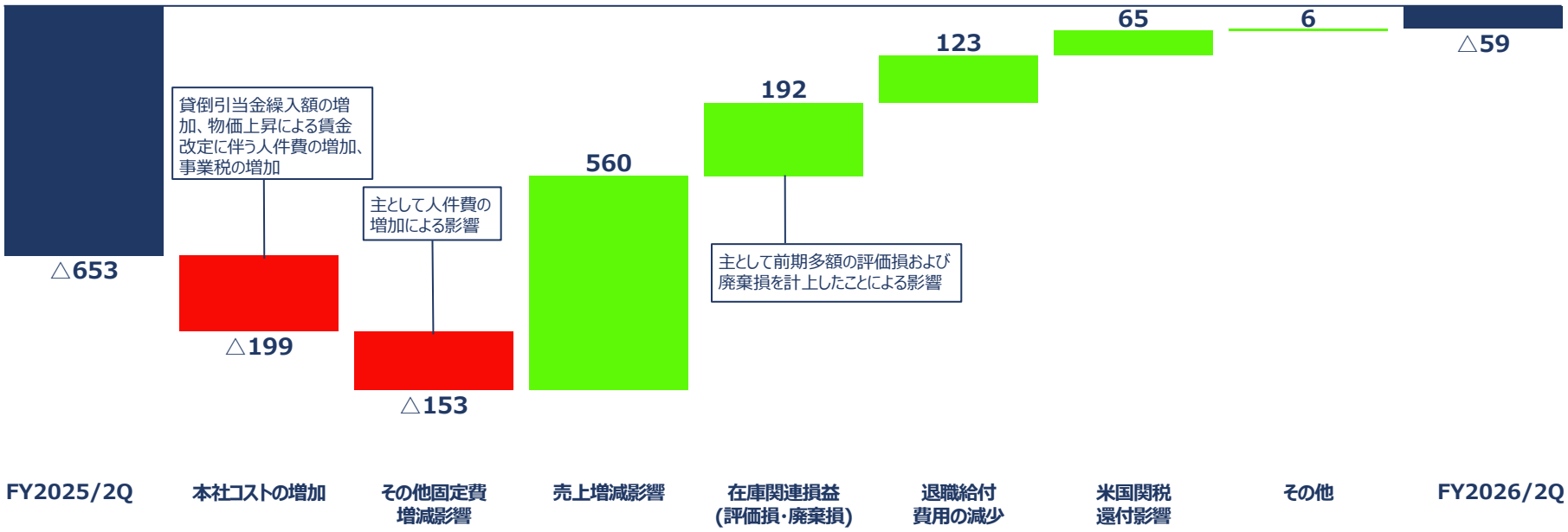
(百万円)	2Q FY2025	2Q **FY2026**	増減額	増減率
売上高	7,193	**8,724**	1,531	21.3%
営業利益	△653	**△59**	593	-

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。

●売上高

- **複合モジュール（増収）**
  POS用途の販売が好調だったことや、EMSにおいては、通信機用途や事務機用途が好調に推移したことにより、増収
- **産業用ラジコン機器（増収）**
  主力の建機用途・FA用途・農業用途が順調に推移したことに加え、国内子会社において新規案件の量産を開始したことにより、増収
- **ホビー用ラジコン機器（増収）**
  国内でのカー用プロポおよびサーボの新製品が好調だったことに加え、欧米での販売も好調だったことなどにより、増収
- **ロボティクス製品（減収）**
  産業用サーボやUAVエンジンが低調に推移したことなどにより、減収
- **有機ELディスプレイ（増収）**
  車載用途の出荷が増加したことなどにより、増収

営業利益差異分析



セグメント別業績状況/生産器材

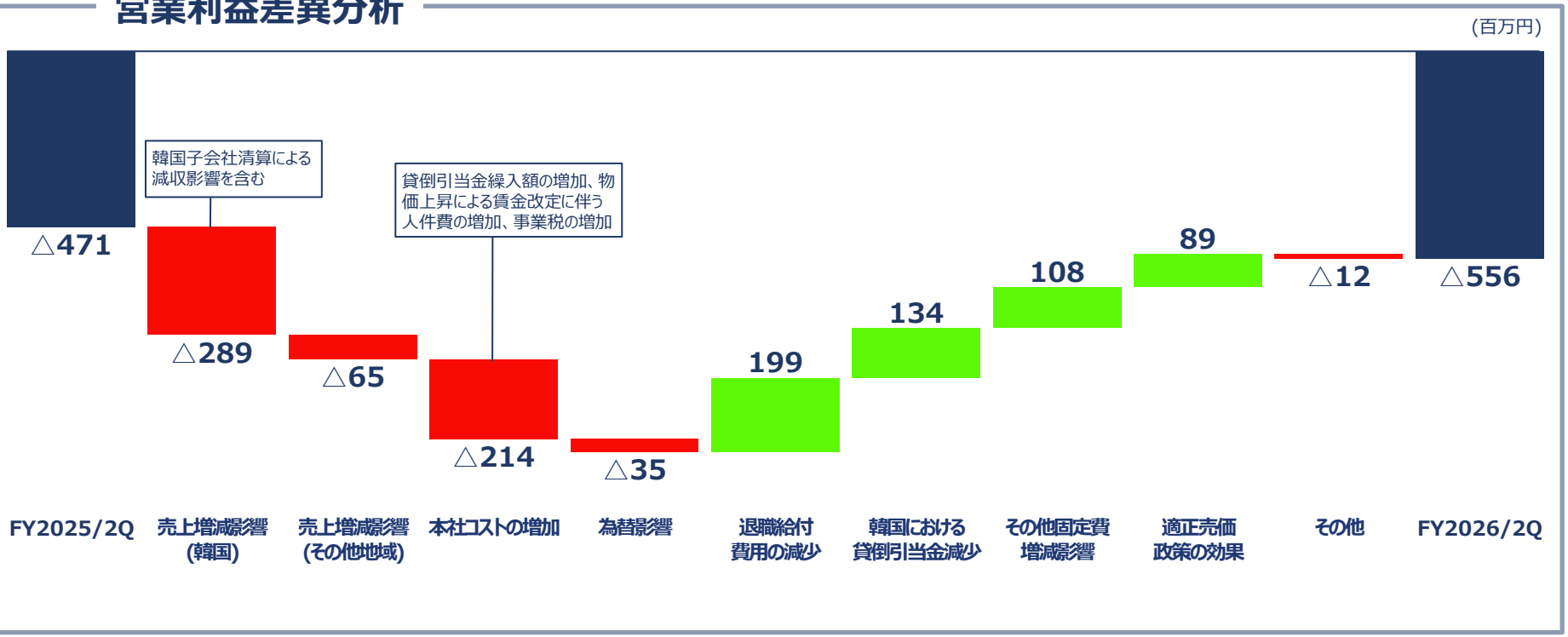
(百万円)	2Q FY2025	**FY2026**	増減額	増減率
売上高	13,774	**13,516**	△257	△1.9%
営業利益	△471	**△556**	△84	-

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。

●**売上高**

- **国内（減収）**
  適正売価政策を推し進めたものの、主として自動車関連市況の回復遅れの影響により、金型内計測システムをはじめとする成形・生産合理化機器やモールド金型用器材が低調に推移したことなどにより、減収
- **海外（減収）**
  アセアン市場は順調に推移したものの、主力の韓国市場で自動車・携帯電話向けの需要の低迷や受注獲得激化に伴う価格競争に対応できなかったことなどにより、減収

営業利益差異分析

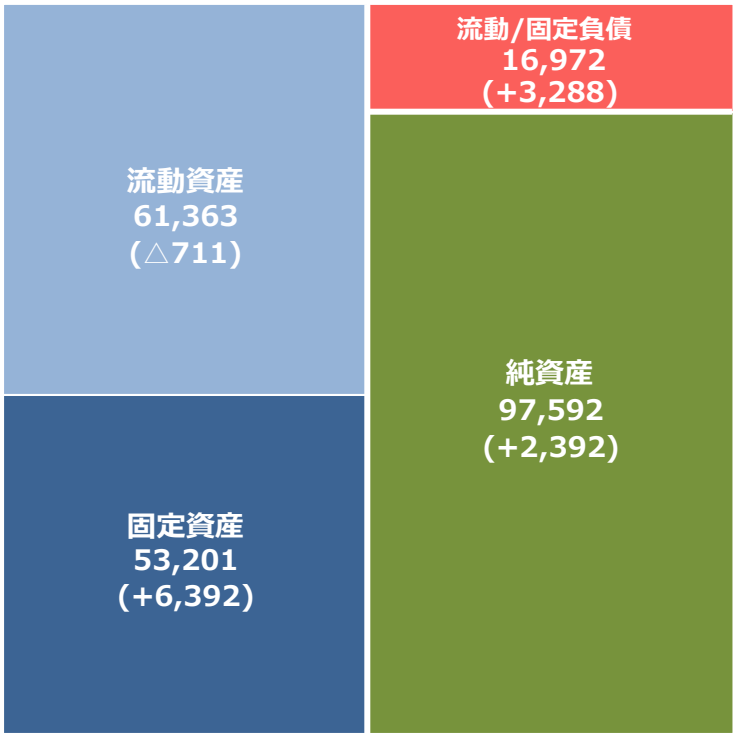


連結貸借対照表の状況

【主な増減要因】
■現預金　：長期性預金への預入および配当金支払による減少
■固定資産：投資有価証券評価差額の計上、為替影響、長期性預金への預入による増加
■固定負債：全社基幹システムに係る費用の一括計上による増加
■自己資本：その他有価証券評価差額金の増加、中間純損失の計上による利益剰余金の減少

(百万円)

(百万円)	FY2025/4Q	FY2026/2Q	増減額 (前期末比)
現預金	36,189	**35,079**	△1,109
売上債権	13,039	**13,332**	292
棚卸資産	11,981	**12,789**	807
その他流動資産	864	**163**	△701
固定資産	46,809	**53,201**	6,392
資産合計	108,884	**114,565**	5,681
流動負債	6,312	**7,108**	796
固定負債	7,372	**9,864**	2,492
自己資本	83,793	**85,512**	1,718
非支配株主持分	11,406	**12,080**	673
負債純資産合計	108,884	**114,565**	5,681



自己資本比率：74.6% (前期末：77.0%)
1株当たり純資産：2,016.08円 (前期末：1,975.55円)

（注）()内の数字は、増減額(前期末比)を表しています。

業績見通し

■業績については、事業セグメント単位で増減はあるものの、連結全体では概ね５月に公表した業績予想に近い内容で推移している
■中東情勢をはじめとする地政学的リスクの高まりや金融資本市場の変動などにより先行き不透明な状況が続いているものの、現時点で５月に公表した業績予想からの大幅な乖離は発生しない見通しであることから当２Qにおいて修正は行わない

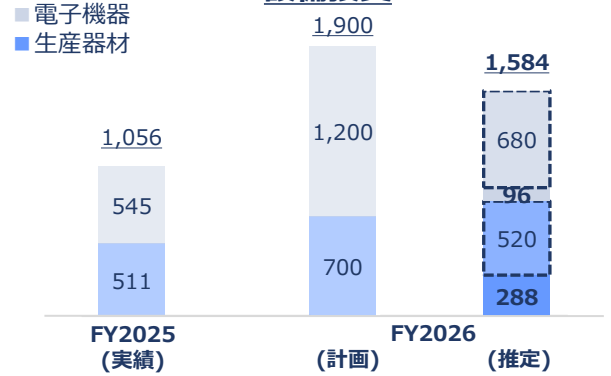
【通期見通し】

(百万円)	FY2025 (実績)	FY2026 (計画)※	増減額 (前期比)
売上高	42,982	**45,000**	2,017
連結合計 営業利益	△2,280	**△1,300**	980
利益率(%)	(△5.3)	**(△2.9)**	
売上高	15,414	**16,800**	1,385
電子機器 営業利益	△1,322	**△600**	722
利益率(%)	(△8.6)	**(△3.6)**	
売上高	27,596	**28,200**	603
生産器材 営業利益	△959	**△700**	259
利益率(%)	(△3.5)	**(△2.5)**	
(為替差損益)	(407)	**(△420)**	(△827)
経常利益	△683	**△850**	△166
利益率(%)	(△1.6)	**(△1.9)**	
当期純利益	2,522	**△3,900**	△6,422
利益率(%)	(5.9)	**(△8.7)**	
平均為替レート	151円/$	**150円/$**	△1円/$

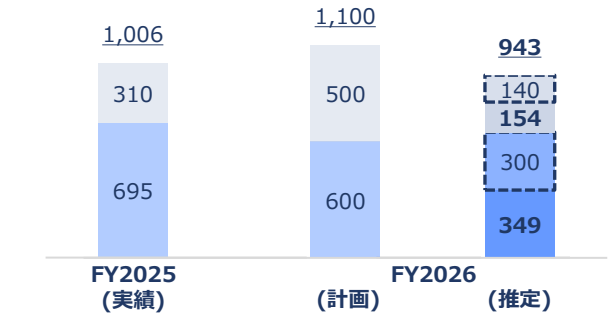
(注) 各セグメントの売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。
※FY2026の年間計画値は、2026年５月12日に公表した業績予想数値です。

(百万円)

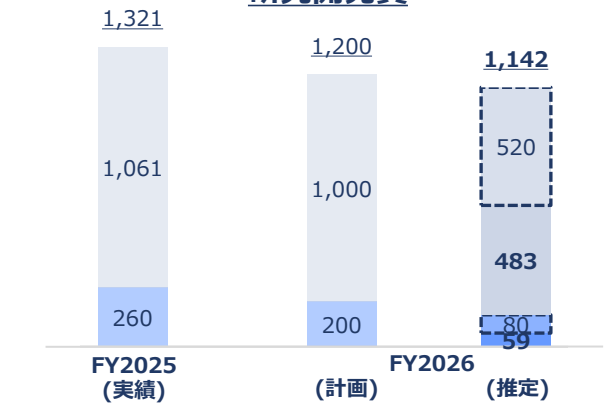
設備投資



減価償却費



研究開発費

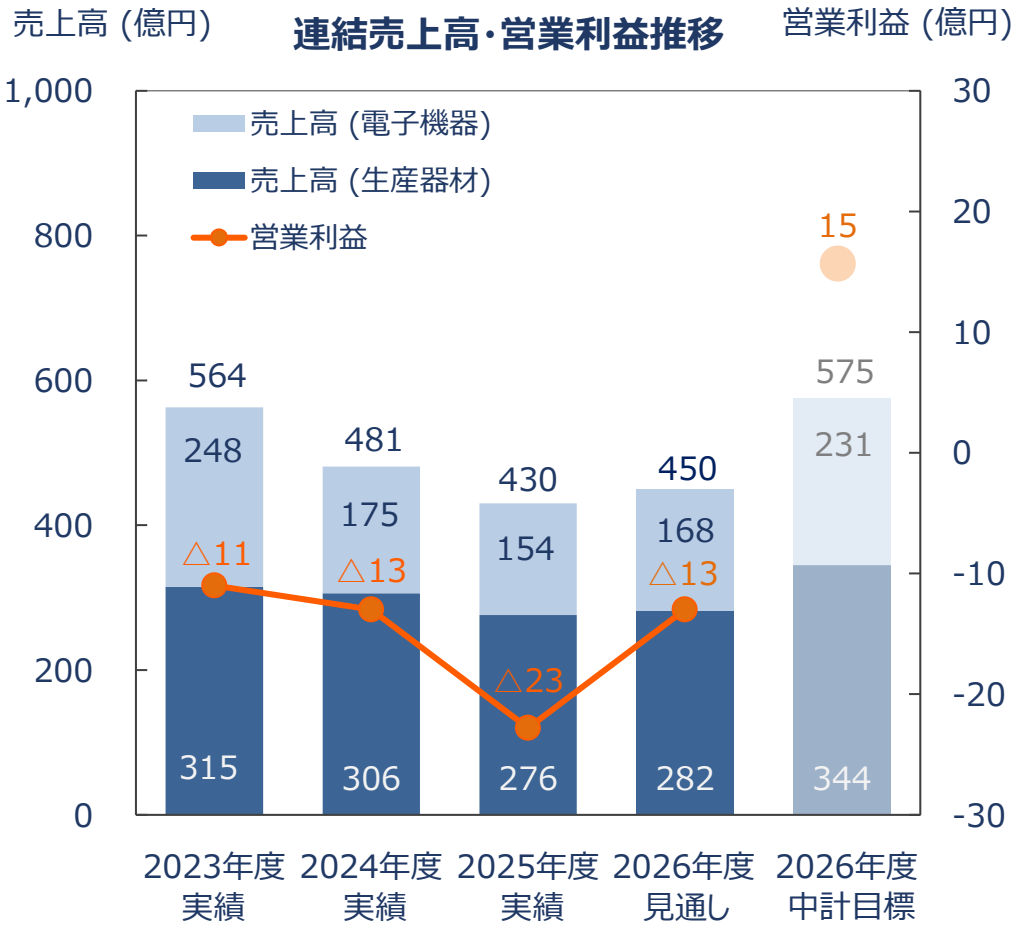


(注)[ ]は下期の推定値を表しています。

中期経営計画
重点施策の進捗状況

中期経営計画 進捗と見通し

黒字転換を見込んで計画を策定したが、事業環境の変化により売上高・営業利益は計画未達の見通し



中期経営計画目標の営業利益15億円に対し、営業損失13億円となる見通し

主な未達要因
- プレス・モールド金型用器材、EMSの売上低迷
- 高付加価値新製品の量産後ろ倒し
- 原材料・人件費上昇

一方で、
- 構造改革による資本効率の改善
- M&Aや出資を通じた成長投資の実行
- 全社基幹システム刷新の取り組み開始

など資本効率改善と成長投資施策を進展

資本効率改善により創出したキャッシュを成長投資へ振り向け、事業成長と収益基盤強化に向けた取り組みを実行

■ 資本効率改善

連結子会社の解散
- 中国の電子機器の販売会社の解散を決議
- 韓国の生産器材の製造・販売会社の解散を決議

固定資産の譲渡
- 当社保有の長生工場内の土地・建物の譲渡を決議
- 2028年10月の引渡、23億円の譲渡益を見込む

政策保有株式の縮減
- 2026年３月期末の15.6%から、2030年３月末までに連結純資産に占める割合を10%未満まで縮減
- 2029年９月末までの売却益として約26億円を見込む

■ 成長投資

炎重工株式会社のグループ化
- 国産水上ドローンの開発・製造を手掛ける炎重工株式会社のグループ化
- 水域分野への事業領域拡大、当社ロボティクス製品とのシナジー効果による収益拡大を目指す

株式会社MAZINへの出資
- 射出成形AIシステムを共同開発する株式会社MAZINへの出資を実行
- AI機能搭載製品を2026年度発売予定、市場投入後も継続的な機能開発・拡充を推進する

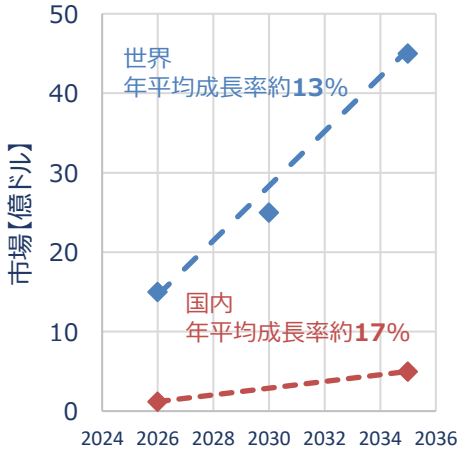
全社基幹システムの刷新
- グローバル標準ERP「SAP」の採用を決定、2028年中に稼働、国内外のグループ会社へ順次展開する
- グローバル経営管理、原価管理高度化、在庫最適化、業務標準化につながる経営基盤を確立する

活動トピック

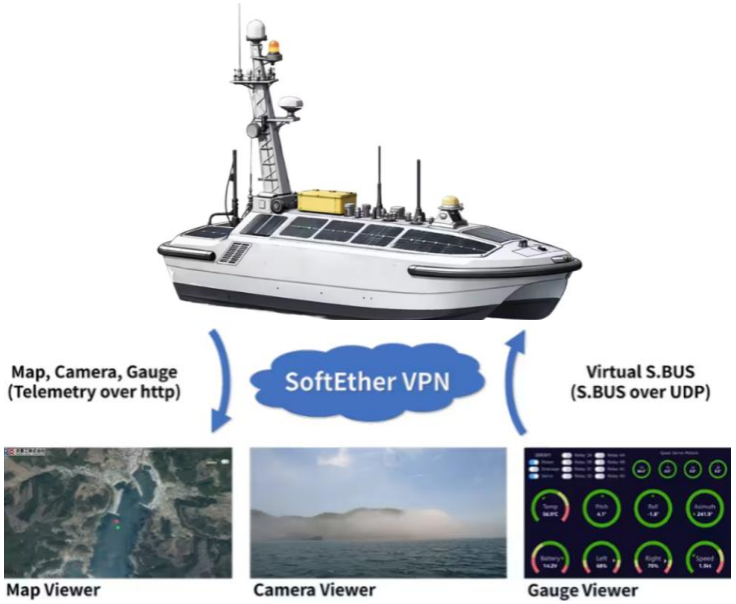
■炎重工株式会社のグループ化

炎重工株式会社
HOMURA HEAVY INDUSTRIES

- 国産水上ドローンの開発・製造を手掛ける炎重工株式会社のグループ化。世界の海洋ドローン市場は拡大傾向。社会インフラの老朽化や人手不足を背景としたインフラ点検、防災、農林水産業、海洋監視等の分野における無人化・自動化需要に応えるべく、水域分野への事業領域拡大を目指す。また、両社の技術・ノウハウを融合し、新たな製品・サービスや事業の創出を図る。



水上ドローン市場
※複数の公開情報をもとに当社推計



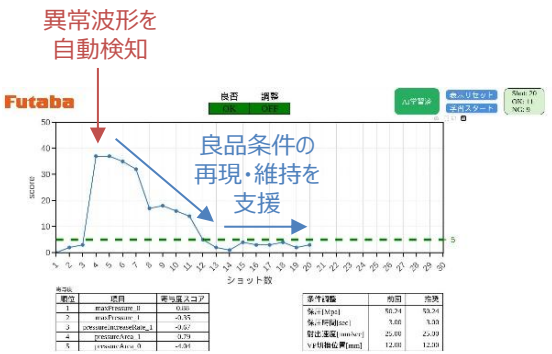
海洋無人機(UMV)
自社開発国産ECU、ソフトを搭載した遠隔操船、自律航行可能なUMVを提供

■株式会社MAZINへの出資

MAZIN

- AI活用成形分野での協業深化に向け、射出成形AIシステムを共同開発する株式会社MAZINへ出資。金型内計測技術とAIを融合し、成形条件の最適化、品質保証、生産性向上に貢献するソリューション開発を推進する。





重点施策　進捗/電子機器

■ システムソリューション事業

中計重点施策
- 建設機械・農業機械の遠隔操作に対応した無線リモコンの提案
- 無線通信技術の深耕化によるIoT環境を構築するシステム化製品の提案

当社の強み
- 低価格と設計自由度の両立
  →標準機からスイッチなどのカスタム対応
- 故障時の迅速な修理対応
  →グローバル拠点を活用したサポート体制

2026年度上期の進捗
- 新規無線リモコンのウエストタイプを量産準備、ラインアップを拡充する開発を進行
- モジュール製品は、データセンター向け製品への需要旺盛
- EMSは、主要顧客が好調であったことから回復、防衛航空宇宙市場やIoT関連ODM案件など新規顧客獲得を推進

2026年度下期の施策
- 新規無線リモコンは、ターゲット機種・市場の拡大と顧客接点強化により、中長期的な成長基盤を構築
- モジュール製品は、価格競争力を考慮したLCDモジュール製品のリニューアル開発
- EMSは、大型案件の確実な獲得



センサエキスポ 出展
- 産業用無線にエッジAIを組み合わせたソリューション製品を展示
  AI判定結果から必要なデータのみをサーバに送信



展示会出展（CSPI-EXPO）
- 国内最大級の国際建機展に無線リモコンのラインアップを出展
- エッジAIを活用したコンセプト展示を実施。カメラ映像から検出した情報をリモコンに表示し、作業を支援

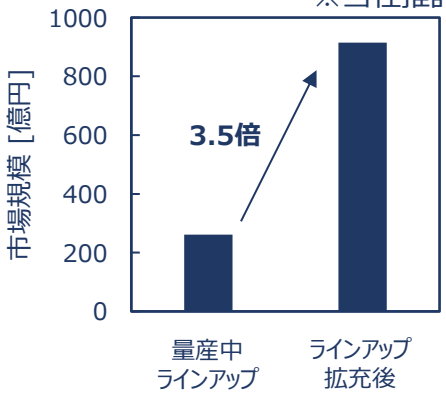


ハンドヘルドタイプ
（量産中）



ピストルグリップタイプ
（量産中）

種類別無線リモコン市場規模
※当社推計





ミニウエストタイプ
（開発中）



ウエストタイプ
（量産準備中）

顧客ニーズに応じた製品群を拡充し、市場カバレッジを拡大

重点施策　進捗/電子機器

■ ロボティクス製品(産業用サーボ・産業用ドローン)

中計重点施策
- 国内外FA・ロボット市場での産業用サーボ用途開拓
- 純国産、カスタム対応、サービス拡充による点検・防災用途でのドローン導入推進
- 防衛用途への拡販

当社の強み
- 機能性、耐久性に優れた産業用サーボ
- グローバル拠点を活用したサポート体制
- 屋外利用を想定した、高い耐風・耐水性の産業用ドローン
- カスタム対応・フライヤー派遣などのドローン運用支援

2026年度上期の進捗
- 展示会出展(XPONENTIAL(アメリカ),機械要素技術展,Japan Drone)
- 防衛関連展示会出展
- 近隣消防、警察関係機関向けのドローン操作・トレーニング協力
- UAV関連製品拡充
  - 小型FPV機開発、展示会出展
  - UAV用ハイトルクサーボBLA34のサイドコネクタータイプの発売

2026年度下期の施策
- 展示会を通じた販促活動継続
- ドローンスクール運営、トレーニング協力
- FA・サービスロボットの電源電圧・通信仕様に対応した産業用サーボ標準製品拡充
- PoCを通じたドローン中・大型機の機能向上
- 小型FPV機を含めたドローン拡販
- 水上ドローンとの組み合わせ提案



BLA34サイドコネクタタイプ
組み込み自由度の向上



小型FPV機





国立研究開発法人防災科学技術研究所の「悪天候下でのドローン飛行」公開デモンストレーションに協力
悪天候下での安定飛行を実証





海外展示会(XPONENTIAL)の展示の様子
左：水中で動く産業用サーボ
右：ラインアップ展示

重点施策　進捗/生産器材

■ 精機事業

中計重点施策
- 調達合理化の範囲拡大、FA領域へ展開強化
- 射出成形向け合理化機器の新製品開発および海外拡販体制の強化

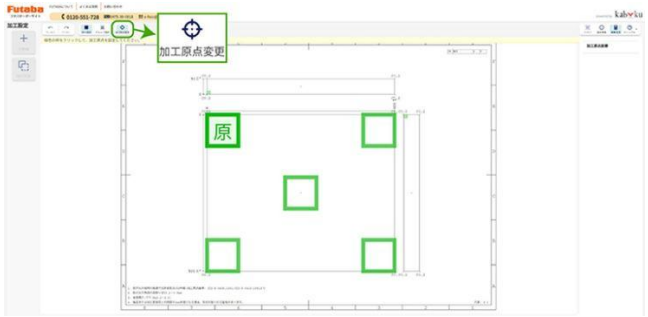
当社の強み
- 金型器材市場における強固な顧客基盤
- 再生プラスチック利用に伴う成形の難化に対応
  → 射出成形AIシステムにより成形品質安定化

2026年度上期の進捗
- 生産器材ECサイト「フタバオーダーサイト(FO)」の継続的な機能追加と設備用途器材の強化、FOリニューアルとAIを活用した新サービスの開発に着手
- 射出成形AIシステムの量産準備、展示会出展

2026年度下期の施策
- 生産器材は、デジタルサービスによる顧客提供価値の向上と、設備業界を中心とした成長市場の需要取り込みを推進
- 射出成形AIシステム等、成形・生産合理化機器の新商品の発売



射出成形AIシステム
- 2026年12月 発売予定
- 展示会 IPF JAPAN に出展予定



（原点切り替え機能）

FO新機能追加
- プレート簡易設計・調達サービス「Plate Builder」に新機能を追加
- お客様の工数削減に貢献



フェルカーボ対応サイズ拡大
- アルミ合金と比較して比重1/2の独自の高強度・軽量素材
- 最大長さ970mmに対応サイズ拡大



海外展示会 (Die & Mould India)
- インド最大の金型関連展示会に金型器材・MMSを出展

新製品サービス紹介・次期中計に向けた方向性

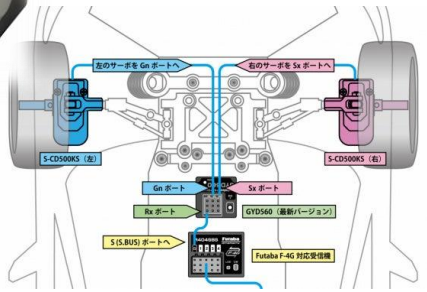
■ 2026年度上期 主な新製品サービス紹介

	主な新製品サービス
電子機器	RC飛行機用サブ受信機 R-70SR
	ドリフトカー用ステアリングサーボ SCD500KS
	6軸ジャイロ内蔵受信機 R3306GY
	RC飛行機用ミドルクラスサーボ S-A401
	産業サーボ BLA34 サイドコネクタタイプ
生産器材	カセット式樹脂試験金型
	Plate Builder 新機能追加
	フェルカーボ 大型プレート



S-CD500KS
(ナックルサーボ)

- 2026年４月 発売開始
- ドリフトカー用ステアリングサーボ
- RC世界初 インホイール構造
- 送信機から操舵特性をチューニング



カセット式樹脂試験金型

- カセット式インサートのみを容易に交換できる新構造の試験金型
- 当社製金型内センサを搭載可能



■ 次期中期経営計画策定に向けた方向性

- 次期中期経営計画にて、成長のための施策および実行計画を開示（2027年５月公表を予定）
- 産業用ラジコン機器、ロボティクス、成形・生産合理化機器などを成長ドライバーと位置付け集中投資
- 資本効率改善により創出したキャッシュを新規事業・DXなど成長投資へ再配分
- 需要旺盛な市場で既存事業の売上を確保しながら、成長市場に向けた新商品開発と拡販を実施
- 株主還元との両立を図りながら企業価値向上を推進